

		健康相談室の特別視 常連化	この空間をあんまり良く思っていない人がいたら、ここで遊んでるってコトだけで、あいつあそこについてたよ…みたいなのもあるのかな… 普段来てない子とかが来た時に、常連さんの思いつき遊んでいることかかいて、それに上手く入っていきなかつたりして、しれでつまんないなって思ってたから、ちよつとあれかな…とは思う。
スタッフとしての働きかけ		その子の存在に気がついていることを伝える 名前、顔、交友関係を覚える 名前を呼ぶ さりげなく話しかける 挨拶する 目線を合わせる 子ども同士がやり取りしている時はなるべく介入しない	ここにきていてるって言うことを、どこかで、気付いている。…気付いていることを伝える。来てるねー、来てるのしってるよー。
子どもたちの変化		ここにきているから…とは言いつれない 元気になる 来て→来なくなる 健康相談室登校の子が普通にもどっている 自己表現が出来るようになる ルールを守れなくなる でも、スタッフとの関係が出来ているので「ダメ」と言える 大暴れ→普通に過ごせるようになる 空間の意味合いの変化	積極的に関わっていくよりも、見守っていて、まっ状況に応じて関わっていく感じなのかな… ここへ来ていた時はすごく深刻そうにしていたけど、次見たときは、へちややら顔して歩いていたりする、のとかをみるとうれしい。 あんまりいつかないことが嬉しかったりする 最初は素直に帰っていた子が、段々味をしめて、「エーッ」とか言うようになるとか 大暴れをしていて、突然こなくなつて、普通に過ごせているのを見ると、あー息抜きだったのかな…と思ったりする。 休み時間が終わると、健康相談室登校の子たちは、パーテーションの向こうに「戻る」
健康相談室登校の子どもについて	気になること	休み時間には肩身が狭い 相談室登校の子とオープンルームの子たちの関わり、つながり 折り合い(元気な子モードと繊細モード) 自信がない	休み時間だからって言うのが分かっていて、で、なおかつそれで、我慢している、それがちよつと切れないかな… (困意の)アドバイスしてあげるよ…とかなんどか言って、一緒についてきてくれて、他の子とも話しが出来るようになるっていうこともあるけど… (相談室登校の子どもには)ちよつと優しく目にはいけなさいといかないんだな…って、いつも反省していた。
スタッフとしての働きかけ		両方(相談室登校の子、オープンルームの子)をサポートする	どっちかにあわせるといんじやなくて、むしろ、両方をおサポートして同じ立場に持っていくように働きかけたら、一番丁寧いいのかな…という。自信がない子はちよつと、持ち上げてあげて、ちよつと元気が有り余ってる子はちよつと抑えて、っていう… 「ああ、出来たんだね」とか、なんかちよつといいことがあったかあ、言ってあげたりとか…

	2者関係を大切に する	たとえばその、ゲームしている途中で休み時間になって、(オーブンルーム)他の子どもたちが来たから、中断してあっちに行っちゃって…みたいなことは……自分のこと適当にしているって思われるのかな…
	学習面の支援 1)ある程度待ってくれる雰囲気 2)ペースをあわせる 3)優しい 立ち直りが早くなった 1)我慢できない状態 2)なんとか我慢する状態 3)自分なりに楽しもう	塾で「やれよ！」っていう感じではなく…
	子どもたちの変化	一番土台のところには「信頼感」…そういう思いがあるから我慢できるんじゃないかな… 休み時間さえ終われば、この人はまた戻ってくるっていう「安心感」みたいなのが土台にあるから、そういう我慢ができるようになったんじゃないかな…
	改善すべき点	本、図鑑を増やす 担任の先生と子どもとのつながり 1)健康相談室でのいい体験を担任の先生にも知って欲しい 2)健康相談室での姿もみてほしい 3)担任の先生との連絡ノートの活用 4)ちよとした気遣い 5)細かい対応 「はなまる」のこれを書いている日と、こう書く日とでさ、違うじゃん、みたいな。子どもって、興味があるんじゃないかなって…繊細なんだよね… 丸はついているけど、何も書いていない…何も書いてくれなかった… 基本的には担任の先生に教えて欲しい 学習面に関しては、絶対的な運搬で「ここまでできているから、次はこういうの、してください」といって言うくらい、権限が欲しいと思つた 普通サイズの足し算引き算でも置いてある子に、巨大な数とかやらされちゃったりとか… そういう風な教え方をするのがいいかって言うのが…わかんないことが多い どうしても、計算とか、漢字とかになるから…もつとなんか本を読ませたりとかしたいんだけど、…そこまで…ここでやるには無理があるっていうか… たとえば、外でも授業なんかには、ついていけたりするとき、…先生と子どもとは話をしたい、私と会話は全然ないから… 逆に、子どもと会話が… 子どもの方も「先生が呼びに来てくれたらいくのにな」とかポソツと言うから、でもそういう時に、たとえば関係が良かったら、「先生ちよと、呼びに来てほしいよ」くらい言って、呼びに来てもらってほしいければそれに越したことはないのに 来ることによって、ここと、教室とで、違う顔をしているんだっていうのを、認識しているって言った先生もいる。
	先生の変化	1)来てくれるようになる いろいろ立場になれる新鮮な場 たのしい やりがいがある
	スタッフにとって	

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
根本芳子、松寄くみ子、柴田玲子、小田島安平	喘息児に対する総合的アプローチの有効性と限界—不登校を伴った症例—	日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌	2 (1)	61-65	2004
古荘純一、松寄くみ子、森田孝次、草尾優美、九場川哲二	心理的問題や行動の問題をもつ子どもを診る際のカウンセリング機関と医療機関の連携の重要性	小児の精神と神経	44 (1)	印刷中	2004
西牟田敏之 (編) 松寄くみ子他 (編集協力)	始まった、全国で初めての「健康相談室」小児医療機関と学校との積極的な協力、連携の試み、子どもたちの心身の健康増進を体系的に目指す	別冊 新しいぜん息管理を目指す現場レポート		5-7	2003

20030336

以降は雑誌/図書等に掲載された論文となりますので、
「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。